

会 議 の 要 旨

会議の名称	第 10 回川越市介護保険事業計画等審議会
開催日時	平成 29 年 8 月 21 日（月） 午後 2 時 00 分 開会 ・ 午後 3 時 50 分 閉会
開催場所	川越市保健所 大会議室（2 階）
議長氏名	会長 齊藤 正身
出席委員氏名	栗原委員、岸委員、小高委員、伊藤委員、桐野委員、今野委員、宮山委員、萩原委員、萩野委員、長峰委員、芝波田委員、船津委員、米原委員、原委員、小林（宣）委員、矢代委員、横田委員、若海委員
欠席委員氏名	藤林委員、橋本委員、小林（勝）委員
事務局職員氏名	関根福祉部長 健康づくり支援課：嶋崎課長、佐藤副主幹 高齢者いきがい課：瀧名課長、宮下副課長、真坂主任 介護保険課：小高副部長、今井副課長 福祉推進課：土屋課長 地域包括ケア推進課：福原参事、三佐崎副課長、佐藤副主幹、福島副主幹、門倉主査
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 報告 （1） 第 9 回川越市介護保険事業計画等審議会について （2） 「すこやかプラン・川越」の策定スケジュールについて 4 議事 （1） 「すこやかプラン・川越」の基本目標に係る検討方法について （2） 「すこやかプラン・川越」における「川越らしさ」について 5 その他 6 閉会
配布資料	1 次第 2 第 9 回川越市介護保険事業計画等審議会議事録…資料 1 3 「すこやかプラン・川越」の策定スケジュールについて（案） …資料 2 4 第 7 期介護保険事業計画策定に係る基本方針等について…資料 3 5 第 7 期骨子（案）…資料 4-1 6 第 7 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）検討に当たって の視点…資料 4-2 7 課題整理・方向性シート（イメージ）…資料 4-3 8 基本目標・施策の記載について（イメージ）…資料 4-4 9 第 7 期基本目標に対する第 6 期計画期間の実施事業等について …資料 4-5①～⑦

## 議事の経過

### 1 開会

### 2 挨拶

会長による開会の挨拶

### 3 報告

#### (1) 第9回川越市介護保険事業計画等審議会について

事務局より、資料1を用いて報告

#### (2) 「すこやかプラン・川越」の策定スケジュールについて

事務局より、資料2を用いて説明

### 4 議事

#### (1) 「すこやかプラン・川越」の基本目標に係る検討方法について

事務局より、資料3、資料4-1、2、3、4、5①~⑦、当日資料を用いて説明

#### (委員)

本審議会では、例えばインフォーマルなサービスはどうしようとか、委員から貴重な意見が出ているが、地域福祉計画ならびに地域福祉活動計画としっかりと連動し、総合的に展開しないとうまく運ばないと思う。できれば、本審議会の会長、副会長と地域福祉計画等に関連する正副議長と行政担当も含めて意見交換できる機会があってもよいのではないかと考える。

#### (副会長)

以前、地域力が問われているという発言をさせてもらったが、まさに福祉のまち川越プランは地域力をどう高めるかという計画であると思う。それぞれのプランの中で目標があるので、その目標を相互に知らないと、それぞれの分野で似通ったような、また、若干意味が違ったような目標を設定してしまうかもしれないので、だぶることのないように、そちらのものはそちらで引き受けていただいて、こちらはそれをきちんとサポートしながらやりましょうというような関係で計画ができればよいと思う。

#### (会長)

事務局から説明のあった「すこやかプラン・川越」の基本目標に係る検討方法については、こ

のようなかたちで進めていくということでもよろしいか。何か意見はないか。

**(委員)**

今まで2期ほど委員をしているが、進め方と資料について、今回はかなりしぼって集中的にやるかたちとなっている。例えば、認知症対策であればそれに関係する資料がでてくるといったようなやり方は今まであまりなかったと思うので、このような進め方でよいと思う。このようなかたちであれば、議論をしぼってできるので集中的に効果的にできると思う。ただ、資料の4-5の①から⑦において、今回は全体の傾向のイメージということではあるが、項目によって実績が何も入っていないものがある。次回から具体的に議論をするので、議論に関係するものは、実績等が入って進捗状況がわかるようにしてもらいたい。

**(会長)**

数字で表せない項目もあると思うが、どうしたらよいか。

**(委員)**

数字で表せない項目は方向性等のコメントを入れてもらえればよいと思う。

**(事務局)**

今回の資料は、第6期介護保険事業計画書の資料編に実績数の記載のあった項目については数字を記載しているが、数字を記載していなかった項目については空欄となっている。数値化できない項目については、文章で進捗状況等を説明できるよう検討させていただく。

**(委員)**

新しい計画を策定するにあたって参考資料は必要となるが、数字だけではなくて、例えば認知症関係で介護マークの貸し出し事業があるが、実績をみると数字が少ないように見受けられる。また、徘徊高齢者家族支援サービス事業のGPS利用者の人数も、この人数でまかなえているのかなど疑問に思うものもあるので、各事業の周知方法や要検討事項などを抽出し、議論ができるような資料を作成してもらいたい。

**(会長)**

数字が並んでいるだけでは、多いのか少ないのか、増やした方がいいのか、現状維持でいいのかわからないため、資料にひと工夫必要だと考える。次回議論する内容に関しては、数値だけではなく、具体的な内容を記載した資料を作成してもらいたい

**(委員)**

資料4-2の4、認知症施策の推進の中で、新オレンジプラン7つの柱というのが出てくるが、こういったものは注釈などで内容をわかりやすくするようにしてもらいたい。一例ではあるが、こういうのは参考にポイントを書いてもらい、それに合わせて川越ではこのような計画を立てていて、特にこの部分に力を入れているとか、オリジナルの視点なんだという

のが分かるようにしてもらえると議論のたたき台になると思う。すべての事業を細かく議論していくのは時間の都合等もあるので、要点など重要なところを示してもらえると議論しやすいと思う。

(委員)

資料4-2の2日常生活を支援する体制の整備(1)生活支援サービスの充実で、検討に当たっての視点が3つある。計画は3年間の期間で、最終的には2025年を考えているが、少なくとも平成30年からの3年間にあたっては、「地域のニーズに応じたインフォーマルサービスの提供体制のしくみづくり」は平成30年度には必ずやる。やるにはどうしたらいいか。そうすると地域のニーズに応じたインフォーマルサービスがどういうものかということ地域によく周知しないと手を挙げる人がいないと思う。「地域資源の把握、開発」は平成31年、32年でもいい。「担い手の発掘と養成」は元気な高齢者を集めて説明をしなければいけない。これは簡単にできるのではないか。周知徹底さえすればこういうようなものは簡単に進むものだと考える。そういうような工程、具体的に年度を区切ってタイムスケジュールをいれていかないと先に進まないのではないかと考える。

(会長)

具体的にいつまでに何をというのがあった方がよいということか。

(委員)

そうですね。

(会長)

他に意見がなければ、基本的には説明のあった方針で進めていくということで皆さんよろしいか。

(全委員)

はい。

(会長)

次回から流れに沿って具体的な内容が出てくるので、それについて議論しやすい資料を事務局の方で作成してもらいたいと思う。

(2)「すこやかプラン・川越」における「川越らしさ」について  
事務局より、議事提案理由を説明の上、意見を求める

**(会長)**

第7期計画で、川越らしさとしてこれに力を入れていこうといったことについて、皆さんの忌憚のない意見をいただいて、イメージをつくっていただければと思う。

**(委員)**

今回、国の基本指針をみると、自立支援や介護予防、重度化防止、また、ひとり一人が「我が事・丸ごと」ということが示されているので、それらを踏まえ「ひとり一人が、共に積極的に社会参加し、介護予防・軽減に貢献できる小江戸川越」や、ひとり一人が基本理念に入っている、ひとり一人ではなく、「市民が共に積極的に社会参加し、介護予防・軽減に貢献できる小江戸川越」または、「誰もが積極的に社会参加し、共に支え合い、介護予防・軽減に貢献できる川越」とすると、国が示しているものと基本理念の部分がイメージとしてあると思う。小江戸川越は全国的にイメージとして定着しており、施策の中で独自のものがあれば、川越らしさが出るのではないかなと思う。

**(委員)**

今回の介護保険事業計画の中で、介護予防が第一かなと思う。川越の特徴としては、保健推進員がいることや、介護予防サポーターがいもっこ体操を取り入れ活動している。なかなか各自治会に要請しても推薦するのが大変だというような意見も耳には入ってくるが、これらは川越の特徴として無理をしてでもこういった人材を増やしていく、保健推進の研修や介護予防の研修を一人でも多くの人に受けていただいて、どなたでも健康維持や介護予防に対する知識を持っている市なんだということを広くPRしていくということも重要かなと思う。他の自治体ですでに取り入れられているということも聞くが、改めて川越でそういったものを普及していくというのはどうだろうかと思う。

**(委員)**

地区別福祉プランそのものが浸透しているかということ、その辺は疑問に思うところがあり、時間の経過の中で手を加えているかということ、加えられていないという印象を持っている。川越市の地域会議は各支会を中心に、本庁管内はまだ2つだが、出張所管内は11箇所全てできている。この地域会議の中の福祉部会を強化するのか、そうではなくて別の会議体をつくるのか、その辺の方向性がみえないが、とは言っても現実に霞ヶ関地区の中のかすみ野自治会の「たすけあいの会」や霞ヶ関北の「にこにこ食堂」のような活動の実例を一つの目標にしていいただきながら、川越らしい施策につなげていければいいのではないかなと思う。皆さんの情報の中で特筆、または、特記できるようなものがあれば、それをどのように全面に出していくかということも議論の中に入れていただければと思う。

**(委員)**

以前、一人暮らしの高齢女性が多いという話を聞いた際に、市に調べてもらったところ、川越の場合は意外と男性の一人暮らしが多いということがわかった。このように世の中で言

われている高齢者のイメージと実際の川越の数字が違う場合もあるし、高齢者実態調査の結果では、芳野地区で他の地区と違う特徴があったりするので、実態を拾っていくということがこれから事業を展開していく上で必要ではないかと思う。また、市民意識調査で地域包括支援センターの認知度を調査した結果、半数以上の方が知らないという回答だった。地域包括支援センターを色々な方に知ってもらおう。例えば、環境では小中学生にゴミの分け方を指導したりしているので、そういうところと連携することが可能であれば、地域包括支援センターという地域で助けてくれる素晴らしいところがあるということをお小中学生の頃から教えていくとか、そういうのも川越らしさになっていくのかなと思う。地域包括支援センターは、やはり介護の核となるので、すべての人が知っているというのを目標に掲げるのもありなのではないかと思う。

#### (会長)

地域包括支援センターは以前は1割程度の認知度であったのが、やっと半分近くになってきたという実態がある。

#### (委員)

例えば、子育てで流山市とかは、「母になるなら流山」というようなキャッチフレーズで子育て世代が増えている。「90歳まで現役」というキャッチフレーズを掲げている自治体もある。そういったキャッチフレーズがあった方が、よりイメージしやすいのかなと思う。また、資料を見ても介護予防事業等の参加人数は多いが、延べ人数が多くて実人数は高齢者の人数に対してそれほど多くなく、参加する人は決まっていて同じ人ばかりのように感じる。そこで、老人クラブや公民館の登録団体、どこにも属していないサークル団体とかたくさんあると思うが、そういった高齢者の活動をより支援するような何かが出せたらいいのかなと思う。例えば今、65歳になったからといって、なかなか老人会にすぐ入るといった感じではない。そういうアクティブシニアの方には就労や担い手としての支援やサークル活動とかの支援ができれば川越らしくなるのかなと思う。

#### (委員)

今まである施策の中で、進んでいる部分を川越市としてアピールする、PRすることや、また、まだなかなか川越市として力を入れられていない部分に光を当てて推進していくことで川越らしさを売りにすることができればいいのではないかと思う。認知症施策についても川越市はかなり頑張っていると思うところもあるが、国で介護保険の制度改革がかなりいろいろとされているので、そういう中で自治体本来の役割として、市民の安心や暮らし、健康を守るという立場をぜひ川越市にも貫いてもらいたいというところを川越らしさに入れてもらえるといいのではないかと思う。

#### (委員)

福祉的な発想から意見を言わせていただくと、確かに受け手と担い手という言葉がある

が、さて、障害がある方が本当に受け手なのだろうかというところではなくて、ノーマライゼーションの思想から考えれば、すべての人が普通の暮らしを営むということが当たり前の姿である。例えば、障害を持った高齢者でも何らかのサポートを受ければ、街の中に出て行って、財布から物を買って、まさにこれが地域の活性化に役立つという視点から考えていけば、そここのところを解決してあげれば主役になれていく。川越というまちは、歴史と文化に育まれたまちという、これはずっと一貫してきているので、例えば、若い時にお祭りを担ってきた、参加してきた者が、脳梗塞が起きて入院して、家に帰ると閉じこもってしまう、自治会とのつながりも突然なくなってしまう、そういうかたちで見ていくと、やはり受け手になってしまうのかなと思う。一步その辺のところを考えていくと、決してそういう考え方になってしまっているんじゃないか、それを考えていく上で、冒頭の会長のあいさつであったが、いつまでも元気で、そして悪くならないようにというのはとても大事なキーワードだと思う。良くなることはもちろん望みたいが、維持することも大事で、でも少しずつ加齢とともに体力が落ちてきたとしても、心の自立は計り知れないものがあると思うので、社会的な参加の機会を与えていくというところに一つキーワードがあるのかなと思う。こういうシステム、今、実際やられている地域は地域福祉計画の把握では地域ごとにたくさんあるので、そういうものを有効にしながら、予防的視点でマネジメントできたらよい計画になるのではないかな。

#### (委員)

実際に体験したことだが、川越市は本当に心の優しい方たちが多いなと感じた。この間、雨が急に降ってきたら、どなたか存じ上げない方が傘をさしてくださいと行って傘を持ってきてくださった。名前を聞いてもおっしゃらないし、今、その方を一生懸命、道を歩きながら探している状況だが、川越市はまだ捨てられないと思う。私は菜の花の会という地域の福祉ボランティアを平成2年に立ち上げた。今ではそれこそお年寄りの方にはたくさん来てもらっている。一年間、いろいろな計画を立てて活動している。先ほどから出ている認知症の方や体を動かせない方、そういった方も会員が迎えに行き、2時間程度だが、歌を歌ったり、絵を描いたり、水上公園に紅葉狩り、それから桜を見に連れて行ってあげたりしている。「楽しかったよ、ありがとう」とおっしゃってくださる、それが会員の力になって今でも続けられている。地域にはもっともっとボランティアをやっている方がたくさんいらっしゃると思うので、そういう方たちも引き上げてくれば、川越のやさしさが出てくるのではないかな。それから、男性の方で定年になった方たちが男性料理にたくさんお見えになっている。私たちが健康な生活を送っていただくため、調理実習などの活動を続けている。ぜひ、また役にたつことがあれば教えていただきたい。本当に川越はまだまだ捨てられない、やさしい心を持った方がたくさんいらっしゃるということを皆さんに認識していただいて、標語をつくっていただければと思う。

#### (副会長)

今、地区組織活動を実践されている方から話があったが、川越は以前から歴史があって、

昔の話になるが、食生活改善推進員などの活動をしている方が大勢いて、それを今続けていただいている、その歴史は大切で、そういう地区組織の方々、それに今、委員から発言があった、たすけあいの会など自治会単位とかいろいろなかたちはあるが、新たなものが生まれてきている。これは川越の特徴なのではないのかなと思う。そういった方々に声を掛けていただいで大勢が参加して、自分がまず自立をする。そしてそれを普及していく。それは川越の特徴というか、一番素晴らしいところではないのかなと思う。そのためには、まず自分が頑張っ、そして人も頑張っ、人のためにもなると。そういうことからすると、介護予防とか元気になるよう、幅広い活動をしていく中で、社会基盤、地域力を高めていく、それが川越の特徴ではないかなと思う。

### (委員)

老人クラブでは友愛実践モデル事業の展開ということで、本日の午前中ウエスタに各クラブ会長約290名が集まり会合をした。8月1日現在、川越市では60歳以上の人が約11万5千人いるが、老人会に入っている人は約7千8百人程度となっている。会員増強にしても、友愛実践モデル事業は一生懸命にやってみたいと考えている。また、埼玉県からはモデル地区に指定され、国から補助金も出ることになっている。川越らしいということ、老人会の方から、さすが川越だ、川越らしいことをやっていると言われるように、県などからの協力をいただいて、大きく広げていきたいと思う。来年の春には発表会もするというスケジュールが出来ているので、どうか皆さん方もこの友愛実践モデル事業について、また、会員増強に繋がることと思うので、ご協力をいただきたいと思う。

### (会長)

案外、みんなが知らない活動がたくさんある。そういうところを盛り上げていけると、川越の今までの歴史を大事にしながら、それを支援して、新たなものが生まれていくような、そういうイメージが川越らしいということなのだろうか。私はリハビリテーションが専門で、リハビリテーションはいろいろな言葉の使い方をするが、地域リハビリテーションという言葉がある。これはコミュニティ・ベースド・リハビリテーション、CBRと言うが、この地域リハビリテーションの大元は、災害にあった国とか戦争や紛争があった国がまちが崩壊してしまっ、その壊れてしまっまちを再興する、また改めてつくっていくということそこから始まっていくのが地域リハビリテーションの基本的な考え方で、東南アジアなどから始まった言葉である。こういう言葉は先進国ではなじまないのではないかとされていたが、今は世界中でコミュニティ・ベースド・リハビリテーションという言葉が使われるようになった。どういう意味で使っているかという、やはりまちづくりから入っていて、もっと言うと福祉のまちづくりというところからリハビリテーションは関わっていくべきだよということになっている。また、ここ近年、国際的に地域リハビリテーションという言葉に必ずついてくるのが、ソーシャル・インクルージョンという言葉で、これは社会的包摂という。意味は、「社会的に弱い立場にある人々をも含め、市民ひとりひとりが排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会（地域社会）の一員として取り込み、支え合う考え方」のことを



社会的包摂という。この言葉を使うということではなく、きっとイメージとしてはこういうことなのではないか。皆で支え合いながら、頑張っている人たちのことは認め合いながら、障害のある方々に対しても皆で支え合っていく、そういうようなまちづくりが必要なのではないかと皆さんの意見を聞いていて思った。イメージとしては、川越はすごく元気で活気もあり、世の中でも有名になったので、川越でいろいろなことをやると、皆注目してくれる。そういう風に注目されると頑張れるというのもあるので、イメージは大事で、そして今やっていることを皆でバックアップしていく、いろんなやっていることを否定するのではなく、肯定していく、そういうことが大事なのかなと思う。

#### (委員)

会長や委員の意見を聞いて、やはり川越はポテンシャルのあるまちだと思う。川越でも社会参加ということ、今までパターン化されたもの以外にも場をつくって、実際に高齢期になってもいろいろなことができるということ、川越はお祭りとかきっかけをいっぱいもっている、それをうまく活用していけば素晴らしいと思う。また、地域福祉計画にある福祉協力員の普及や見守りネットワークの構築というのは、まさに介護のことで、介護予防につながると思うので、うまく組み合わせて、いろいろなかたちで社会参加の場をつくっていただければと思う。

#### (会長)

皆さんアプローチは違っても、言っていることはほぼ同じではないかと思う。川越らしさを違う言葉で表現するというのはなかなか難しいかもしれないが、今やっている色々な活動をしっかり支援しながら、また、新たな活動も認めながら、一人でも多くの人が元気なこと。川越にはいきいきエイジングという介護予防の言葉があって、いきいきして年齢を重ねていこうということだが、その辺が大事なのかなと思う。しつこいようだが、色々とやられている活動を活かしていく、否定せずにその活動が伸びていくような、若い人も巻き込んでやっていくようなことが大事だと思う。今回は、川越らしさのイメージを持っていただくということが大事なので、このイメージを持ったまま次回からの具体的な内容に入っていくと発展的な内容になっていくと思う。もう一步介護予防をバージョンアップして、他でやっていないような取組みに介護予防がつけられると良いのではないかな。

#### (事務局)

保健医療部の健康づくりの計画はライフステージごとの健康づくりとなっている。そことの関係を意識しながら介護保険の次期計画をつくっていただければと思う。

#### (会長)

次回からはかなり細かい内容となってくると思うので、積極的な、前向きな意見をいただいて、一歩進めたかたちの計画になっていくと良いと思う。

**(事務局)**

本日、色々なワードをいただいたので、市として川越である程度進んでいる部分をさらにアピールして進めていくというのも川越らしさで、これを施策展開としてつなげられればと考える。

5 その他

6 閉会